

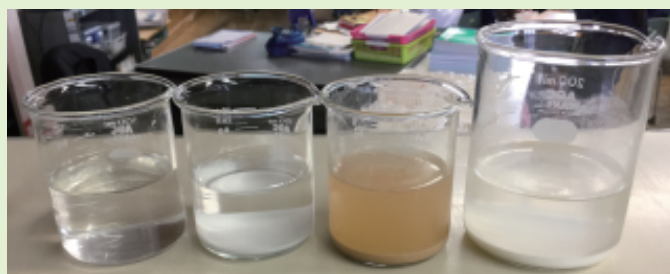
# Color Gallery

ヘッドライン

市民として必要な基礎・基本の化学Ⅻ  
—児童・生徒・学生は、ここがわからない

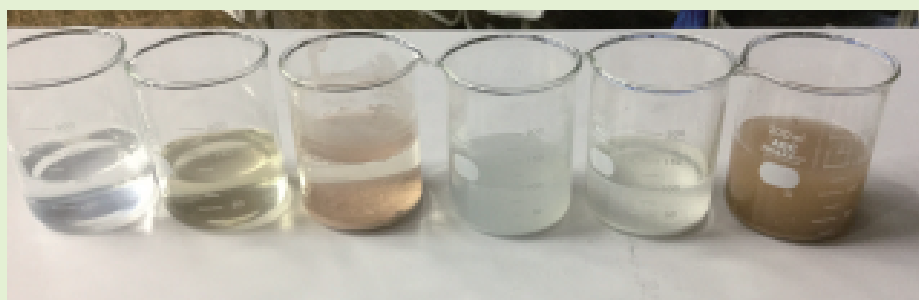
## 主体的に学びを深める子どもたち —「ものの溶け方」の導入部分の実践から—

栃川正樹, 浅原雅浩



### ■物質を溶かす操作を行って, 1日経過したもの (p173)

4年生の単元「水のすがたと温度」では, 状態変化の「融ける」を学習する。左から砂糖・片栗粉・きな粉・小麦粉を水に溶かし, 「どのような状態になったとき, 水に溶けたといえるのか」について観察した。



### ■追加試料による実験, 1日経過したもの (p173)

児童から出てきた6試料についても実験した。左から, クエン酸, 三温糖, チョーク, 洗濯粉, 白玉粉, チョコレート。三温糖は沈殿物がなく, 上澄み液部分が他と比べて透き通っていた。児童はその様子から三温糖は水に溶けると判断し, 色付きでも溶液が透明ならば, 溶けていると考えようになった。